

飯塚曲湖 いひづか 漢詩人。弘化二年出雲國生れ、昭和四年十一月六日歿（八四―一九元）。諱納、字修平、通稱靜庵。父は松江藩醫利庵。文久二年江戸へ赴き洋學を學ぶ。明治二年勝海舟の嚆矢による官拔徴士の選に入りフランスに留學の命を受く。法制家アコラスに師事し、同門の親友西園寺公望と交遊の有りたカール・マルクスを紹介した。十三年歸朝、翌年『東洋自由新聞』創刊に参劃。副社長と成つて自由民権説を展開するも、勅命が下つて西園寺社長の退くに及んで自らも身を引き、爾來へ五言八句の律詩のみをこめて生涯を終つた孤鶴の如き詩人（伊藤節隆彦）。

著書 『西湖四十字詩集』（明治二十八年六月序、無刊記）、『西湖四十字詩』（權藤鳳劍編、昭和五年七月十日松本多賀司刊）。

